

JA 全農ちば 営農情報集

2024年
5月

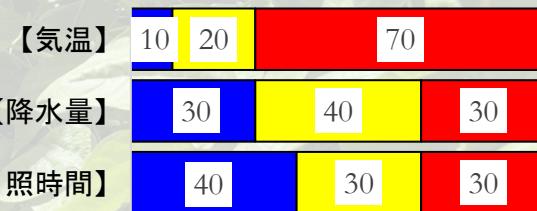


今月の情報

- 水稻 本田殺虫剤と後期除草剤について
- 園芸野菜 病害虫防除情報
- 果樹（ナシ）病害虫防除情報
- イチゴ ハダニ天敵防除について
- GAP 異物混入防止について

今月の気象（気象庁 4/27 発表 1か月予報より）

5月も、4月から継続して気温が高くなる予報です。気温が高くなることで病害虫の発生が多くなることが予想されます。特に、カメムシ類の発生が多くなる予想がされるため、早めの防除を心がけましょう。



■ : 低い ■ : 平年並み ■ : 高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稻 本田初期害虫対策と 取り残し雑草対策のポイント

J A 全農ちば
営農支援部

1. 初期害虫の生態および防除対策

初期害虫対策のため箱施薬剤を使用した場合でも害虫の発生量が多いと防除しきれないことがあります。食害が多い場合は本田防除剤による追加防除を行いましょう。

(1) 初期害虫の特徴

①イネミズゾウムシ

体長3~4mm。年1回発生。

例年では4月下旬頃から飛来開始。

成虫は葉脈にそって細長く食害する。

幼虫は根を食害し初期生育を抑制する。



イネミズゾウムシ

②イネドロオイムシ

体長5mm。年1回発生。

成虫で越冬し5月以降飛来する。

成虫、幼虫ともに葉を食害するが、幼虫による被害が大きい。



イネドロオイムシ（成虫）



イネドロオイムシ（幼虫）

(2) 本田防除対策について

①成虫（イネミズゾウムシ・イネドロオイムシ）を中心とした防除対策
5月中～下旬に合成ピレスロイド系薬剤（水面施用剤）を散布する。

・トレビン粒剤 2~3kg/10a

②幼虫（イネドロオイムシ）を中心とした防除対策

※幼虫による食害が見られ始めたら「粉剤」に切り替えて散布する。

・トレビン粉剤 DL (3~4kg/10a)、スタークル粉剤 DL (3kg/10a)

2. 水田の取り残し雑草対策

中・後期除草剤は残った雑草によって対策する薬剤が異なりますので、選択を間違えないよう注意しましょう。

(1) ノビエ及び広葉雑草などが残った水田

レプラス 1キロ粒剤・ジャンボ

- ア. 使用時期：移植後 14日～ノビエ 4葉期ただし、収穫 60日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布。ジャンボ剤は水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
ジャンボ剤 小包装（パック）10個(400g)/10a
- エ. 特徴：ノビエのほかコナギ、ホタルイ、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラなど広範囲に効果を示す。

クリンチャーバスM E液剤

- ア. 使用時期：移植後 15日～ノビエ 5葉期 但し、収穫 50日前まで
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後 3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：1000 ml/10a
- エ. 敷布水量：70～1000l/10a
- オ. 特徴：ノビエに効果がある「クリンチャーレ剤」と広葉雑草に効果を示す「バサグラン剤」との混合剤。

アトトリ 1キロ粒剤・豆つぶ 250

- ア. 使用時期：移植後 14日（稲 5葉期以降）～ノビエ 4葉期 但し収穫 45日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1キロ粒剤 1kg/10a
豆つぶ剤 250g/10a
- エ. 特徴：コウキヤガラ、オモダカなどの多年生雑草に対する効果高い。
ノビエも対象にする場合は、葉齢に注意し散布する。

(2) ノビエのみ残った水田 クリンチャーワンキロ粒剤

- ア. 使用時期：移植後 7日～ノビエ 4葉期 但し、収穫 30日前まで
- イ. 使用方法：湛水散布
- ウ. 使用薬量：1 kg/10a
- エ. 特徴：ノビエに効果を發揮。

(3) 広葉雑草のみ残った水田 バサグラン粒剤・液剤

- ア. 使用時期：移植後 15～55日 但し、収穫 60日前まで（液剤は収穫 50日前まで）
- イ. 使用方法：落水散布または、ごく浅く湛水して散布。散布後 3日間は入水しない。
- ウ. 使用薬量：粒剤：3～4 kg/10a
液剤：薬量 500～700ml・水量 70～1000l/10a
- エ. 特徴：対象草種は広葉雑草のみ。液剤はしっかりと茎葉散布処理をする。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A 全農ちば
営農支援部

1. はじめに

5月も気温は上がる見込みとなり、圃場では病害虫ともに発生しやすい状況になります。秋冬ネギやサツマイモは栽培開始の重要な時期です。薬剤の系統が被らないように選択しながら、初期防除を徹底して実施しましょう。

2. ネギ (定植準備: 育苗トレイ)

ネギでは、ペーパーポット等の育苗トレイ苗に対して灌注処理登録をもつ農薬が年々増えており、初期害虫に加えて黒腐菌核病の対策も可能になっています。また、土壤消毒(ガスター・キルパー等)、圃場 pH 値と排水性の改善、圃場での生育期防除を組み合わせることでより高い防除効果を期待することができます。

灌注処理剤は根から成分が吸収されて効果を発揮します。定植後からの効果を期待する場合は、使用時期が「育苗期後半～定植当日」の薬剤は、定植直前の処理ではなく定植およそ3日前～前日の処理がより効果的です。

○初期害虫 防除薬剤(灌注)

対象害虫 ※1	IRAC コード	薬剤名	使用量 ※2	使用時期	使用 回数
アザミウマ類	4A	スタークル顆粒水溶剤	50 倍	定植前日～定植時	1回
ハモグリバエ類	28	ベリマークSC	400 倍	育苗期後半～定植当日	1回
タネバエ	4A+28	ジュリボフロアブル※1	200 倍	育苗期後半～定植当日	1回



アザミウマの被害



ハモグリバエの被害



ハモグリバエ成虫

○黒腐菌核病 防除薬剤(灌注)

対象病害	FRAC コード	薬剤名	使用量 ※2	使用時期	使用 回数
黒腐菌核病	7	パレード 20 フロアブル	100 倍	育苗期後半～定植当日	1回

※1 ジュリボフロアブルの対象害虫はネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、タネバエ

※2 敷水量は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約 30×60cm、使用土壌約 1.5～4L)あたり 0.5L

3. サツマイモ (定植準備)

(1) 病害対策

【つる割病】

土壌伝染性病害で苗の切り口や土中の茎、根部から感染します。株全体が萎れ、葉は黄～黒褐色になり落葉します。茎の地際部が縦に割れることが特徴です。クロルピクリン剤やガスターD微粒剤等の土壌消毒と併せて下記の苗消毒処理を実施しましょう。

【基腐病】

令和3年7月にサツマイモ基腐病の発生が千葉県内で初めて確認されました。基腐病は、一度被害が発生してしまうと防除が非常に困難であるため、病原菌の圃場への侵入を未然に防ぐ、「持ち込まない」事が重要です。徹底した防除を実施しましょう。

本病の早期発見および感染拡大の防止を図るため、万が一疑義株を発見した際には、速やかに最寄りの農業事務所まで連絡をお願いいたします。

○サツマイモ 定植苗防除薬剤

対象病害	FRAC コード	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
つる割病	1	ベンレート水和剤	500～1000倍 30分間苗浸漬		
黒斑病※				植付前	1回
基腐病	1 M3	ベンレートT水和剤 20	200倍 30分間苗浸漬		

※黒斑病：30分間苗基部浸漬

(2) 害虫対策

センチュウ類やコガネムシ類、ハリガネムシ類に対して、下記の粒剤による初期防除を行いましょう。後作のためにもD-D等による土壌消毒と併せた徹底防除を行いましょう。

○サツマイモ ネコブセンチュウ防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	使用量 /10a	使用 時期	使用方法	使用 回数
ネコブ	1B	ネマトリンエース粒剤	15～20kg 10～30kg		作条土壤混和 全面土壤混和	1回
センチュウ		ネマキック粒剤	15～50kg	植付前	全面土壤混和	1回
	(F:7)	ビーラム粒剤	20kg		全面土壤混和	1回

○サツマイモ コガネムシ・ハリガネムシ防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	使用量 /10a	使用 時期	使用方法	使用 回数
※1						
コガネムシ類	4A	アドマイヤー1粒剤 ダントツ粒剤	6kg 6～9kg	植付前	作条又は 全面土壤混和	1回 1回
コガネムシ類	3A	フォース粒剤※1	9kg		全面土壤混和	1回
ハリガネムシ類	2B	プリンスベイト※2	6kg	植付時	植溝土壤混和	1回

※1 フォース粒剤の対象害虫はコガネムシ類幼虫、ハリガネムシ類

※2 プリンスベイト：コガネムシ類対象の場合、植付前・全面土壤混和登録あり

果樹（ナシ）病害虫防除情報

J A 全農ちば
當農支援部

1. はじめに

近年、開花が早まっている年が続きましたが、本年は梨の開花が例年並みとなりました。そのため、散布タイミングとしては概ね防除暦通りの散布になると予想されます。各園の病害虫発生状況を観察し、必要に応じて下記を参考にしながら臨機の追加防除を実施し、対策をしましょう。

2. 黒星病対策



【基幹防除】黒星病・心腐れ症・疫病などの総合予防

5月上旬 : ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000 倍(前日／3回以内)
+ トレノックスプロアブル 500 倍(30日前／5回以内)

5月中旬①:ベルクートプロアブル 1,500 倍(14日前／5回以内)

5月中旬② <下記ポイント(2)参照>

5月下旬 : 有機銅プロアブル
(例)キノンドーフロアブル 1,000 倍(3日前／9回以内)

●ポイント

(1) 病斑の除去

果柄部や葉軸に黒星病の発生が見られる場合は摘果作業等と合わせて除去しましょう。

(2) 黒星病の臨機防除や、前進した防除タイミングを戻すため追加防除を行う場合

ユニックス顆粒水和剤 47 とベルクートプロアブルによる追加防除を実施しましょう。
ユニックスは有機リン系殺虫剤(サイアノックス等)との混用は避けましょう。

(3) 防除効果を安定させるには散布水量も重要です。2500/10a を目安に様々な方向から農薬がかかるよう散布しましょう。特に降雨前や発生中の病害対策のため必要です。

3. アブラムシ類、ハマキムシ類、ニセナシサビダニ類

5月以降、アブラムシ類・チョウ目害虫・ニセナシサビダニが発生します。特にアブラムシ類・ニセナシサビダニは新梢・新葉をよく観察し、防除を行いましょう。

複数種の害虫防除では基幹防除(防除暦)を参考としますが、それぞれの臨機防除が必要な場合は下枠内をご確認ください。



アブラムシ類被害



ニセナシサビダニ被害

【基幹防除】アブラムシ類・ハマキムシ類・その他害虫防除

5月上旬 サイアノックス水和剤 1,000倍(無袋45日前・有袋7日前／3回以内)

5月中旬 コテツプロアブル 2,000倍(前日／3回以内)

[臨機防除]アブラムシ類、シンクイムシ類の発生が見られる場合。

マブリック水和剤 20 2,000倍(30日前／2回以内)

[注意点] コテツ・マブリック共に浸透移行性が無いため、既に葉が巻いてしまうと効果が発揮しにくい。その場合は下記の臨機防除対策を参照。

5月下旬 モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(前日／3回以内)

※新高、長十郎等の場合→ダントツ水溶剤 2,000倍(前日／3回以内)もしくは
アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍(前日／3回以内)のいずれかを散布

●アブラムシ類臨機防除

4月下旬にモベントプロアブル(浸透移行性あり)を散布していない場合はニセナシサビダニの防除を含め、散布しましょう。5月に入り、アブラムシ類の発生が続き、臨機防除が必要な場合はウララDF(2,000倍／14日前／2回以内)またはトランスマーフロアブル(2,000倍／前日／3回以内)を選択しましょう。ただし、どちらもこの時期の対象害虫としてはアブラムシ類のみなので注意。

●チョウ目害虫の臨機防除

基幹防除のサイアノックス・コテツ・モスピランがチョウ目害虫防除を兼ねますが、発生が多い場合は、サムコルプロアブル 10 5,000倍(前日／3回以内)の追加防除を実施しましょう。ただしチョウ目害虫のみが対象なので注意。

ハダニピークを作らないイチゴ栽培のポイント

今日は
育苗期防除編です！



－全農ハダニ“ゼロ”プロジェクト－

*2020年に王敵資材を柱とした防除プロジェクトをスケ



2つの重要なポイントは、

- ・「育苗期間中からハダニ類の密度をゼロに抑える」
 - ・「放飼後1カ月間のハウス内湿度50%以上維持」

育苗期のハダニ類防除プログラム

薬剤防除でのポイントはここ！

使用液量

*適切な使用液量を散布する。→子苗6000株(10a分の苗)あたり100リットルの使用液量を推奨、散布圧は、目安1.5MPaを設定します。

殺ダニ剤に加用する 気門封鎖剤の例

* 殺ダニ剤(アグリメック、グレーシア乳剤、ダニオーテフロアブル)を散布するときには、
 水門封鎖剤(例:ピタイチ、フーモン)を加用する。

* 加用することで相乗効果の事例も確認しています。展着剤を使用する必要はありません。

気門封鎖剤に加用する展着剤の例

* 気門封鎖剤(サフォイル乳剤)に湿展性の高い着色剤『まくびか』等を加用すると均一に広がるので乾きやすくなり薬害のリスクを軽減します。

→夏眠期では晴天日の夕方、本園では晴天日の午前中に散布することが大切です。

ハウス内
環境制御

*ミヤコカブリダニは、湿度低下でふ化や発育が阻害されてしまうため、飽差管理が重要。
晴天日の昼間湿度50%以下が長時間継続しないように注意！
➡(例)有機資材(稻わらやケイントップ等)の敷設、通路マルチを外す、灌水回数を増やす

次回は
本園防除編です！

- *9月定植に向けて
- ①圃場の整備
 - ・床/床土の準備・消毒
 - ・各種資材・機材の準備、調整
- ②定植苗の準備
- ・育成
- ・病害虫防除(上記記載)

- *9月上旬・中旬
:定植前
- ・モベントフロアブル
- ・500倍-50ml or
- ・250倍-25ml灌注

JA全農 農業資材部農薬課作成 “イチゴハダニゼロプロジェクト”冊子より抜粋編集

農作業安全管理機による巻き込まれ事故注意！ 転回・バック時は慎重に！

食の安全・安心 豊富散布器具は毎回必ず洗浄!

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば 岡農支援部

安全な農作物生産の取り組みについて

～異物混入防止～

JA全農ちば 営農支援部

1. はじめに

昨今の消費者の食の安全・安心への関心は非常に高く、新型コロナウイルスの拡大によってその傾向はさらに強まったと考えられます。これらに対するリスク管理が求められる中、農作物の食の安全安心のリスクのひとつとして「異物混入」が挙げられます。異物混入は発生頻度の高い事案でもありますので、収穫や出荷場面において未然防止に努めましょう。

2. 異物混入を防ぐために！

(1) ハサミや包丁など収穫・出荷時に使用する道具の混入に注意しましょう



使用する道具の片付ける場所を決めましょう



器具類には番号・色付けをしましょう

(2) 虫やタバコ・ペットの毛・ペンなどが出荷物に入り込まないようにしましょう

異物混入の中では「虫」「タバコ」の混入事例が多くなっています！！

虫を作業場に入れないように網戸などで防ぎましょう



スマホの混入事例も増加中です
ポケットはチャック付を選びましょう



作業場での飲食・喫煙は避けましょう

場所を分けることができない場合は、「作業時間」と「休憩時間」など時間で区切り、都度片付けましょう



(3) 出荷用の資材は清潔に保ちましょう

出荷用の段ボールなどにはカバーをかけてホコリが被らないようにしましょう。また、汚れてしまった資材の使用は避けましょう。



**異物混入は気づかないところで発生してしまうことが多いです。
「入れない」ための予防を行いましょう！**